

【江西省みかん園再建計画】

被供与団体：江西省農業庁

供与額：37,037 米ドル

契約署名日：平成 4(1992)年月日

【江西省修水県上杭道路建設計画】

被供与団体：江西省修水県上杭郷政府

供与額：83,542 米ドル

契約署名日：平成 10(1998)年 12 月 17 日

案件概要：

江西省修水県上杭郷の人口は 1 万 7 千人、平均年収は 669 元(約 1 万 1 千円)で、同県で最も貧しい特別貧困郷である。同郷は、農業以外の産業がなく、貧困の主な原因は交通が極端に不便なことである。特に、上杭郷所轄から 5km の山間地帯にある杏港村まで、未舗装且つ 1 人しか歩けない道で、運送手段は数千年来変わっていない手押し一輪車であり、急病の際にも病院に行くまで長時間を要し、生活物資も村に入りにくく、農産物も村の外への輸送が困難で、村の経済発展は大きく制限され、村民は自給自足生活を営まざる終えない状況にあった。

同村より郷政府所在地まで迅速なアクセスを可能とならしめるため 7.5km(道路幅 6m)「上杭一杏港」の道路建設が差し迫った課題となっていたが、同県の年間財政収入は 40 万元(680 万円)に過ぎず、建設費用を負担できずにいたため、草の根無償資金協力で約 69 万元を援助することとなった。

本件の実施により、杏港村民約 2,000 人及び周辺地域住民の生活条件を大きく改善され、上杭郷および郷の属する修水県の経済発展の促進が期待される。

【江西省南城県岳口郷小学校復興計画】

被供与団体：江西省教育委員会

供与額：30,245 米ドル

契約署名日：平成 10(1998)年 11 月 27 日

案件概要:

1998年の洪水により、同郷岳口郷中心小学校の校舎はすべて倒壊し、児童は簡易室にて授業を受けていた。本件は、2階建て1棟の校舎を建設することにより、児童の教育環境を回復させるというものである。

【江西省余干県楓港郷小学校復興計画】

被供与団体: 江西省教育委員会

供与額: 30,245 米ドル

契約署名日: 平成 10(1998)年 11 月 27 日

案件概要:

1998年の洪水により、余干県楓港郷小学校の校舎が倒壊し、450名の児童の教育に影響が出ていたため、校舎再建するための資金を援助した。

【江西省波陽県磨刀石郷小学校復興計画】

被供与団体: 江西省教育委員会

供与額: 30,245 米ドル

契約署名日: 平成 10(1998)年 11 月 27 日

案件概要:

1998年の洪水により校舎の大部分が倒壊した同郷角山庄学校は、民家を借りて授業を受けていた。同校舎再建により正常な教育環境を回復させるための資金を援助した。

【江西省上饒県教育条件改善計画】

被供与団体: 江西省上饒県人民政府

供与額: 71,125 米ドル

契約署名日: 平成 11(1999)年 12 月 8 日

案件概要:

上饒県は江西省の東北部、江西省の省都である南昌の西方 300kmに位置し、1998 年の農民一人当たりの年間収入は 1,260 元(約 18,900 円)で、国家級貧困県に指定されている。全県の 23.5%の小中学校の校舎が危険な状況で、改修・新築が必要であるが、同県の財政収入は 9,906 万元で財政困難のため、全面的な改修等は困難であった。

本件は、同県黄沙嶺郷中学校の校舎建設費を援助したもので、従来から通学している 546 名の生徒だけでなく、教室不足のために他校に通学していた 560 名の生徒も入学可能となり、教育条件が大幅に改善された。

【江西省万安県教育条件改善計画】

被供与団体: 中国扶貧基金会

供与額: 30,245 米ドル

契約署名日: 平成 11(1999)年 9 月 22 日

案件概要:

黄塘小学校は 1990 年 6 月、1994 年 9 月、1998 年 4 月の 3 回にわたって竜巻と雹の被害に遭った。特に 1998 年 4 月の風害により現地の 70%の農家が被害に遭い、校舎も一部倒壊した。倒壊していない校舎も傾斜し、所々ひび割れしていて、倒壊を免れた校舎に柱を増設して授業を行っていたものの、天候が悪いときには授業不可能となるなど、一級危険建築に鑑定され、早急に校舎を再建する必要があった。

本件は、同校の校舎再建のための資金を援助したものである。

【江西省都昌県大沙中学校校舎再建計画】

被供与団体: 江西省都昌県大沙郷人民政府

供与額: 86,073 米ドル

契約署名日: 平成 12(2000)年 11 月 9 日

案件概要:

都昌県大沙郷は、二つの中学校(大沙一中、大沙二中:生徒 1,723 名、教師・業務職員 102 名)を有していたが、両校舎とも低地に築かれており、1998 年の大洪水時には、学校構内が 2 ヶ月以上浸水し(最高で 2m の浸水)、校舎(80%以上)、教学設備(机・椅子の破壊、図書資料および実験器具の破損)等、大きな被害を

被った。その後、教育を重視している同郷は、両校の修復工事を行ったものの、1999年の大洪水により再び浸水し、壁が倒れる等、修復は水の泡と帰し、生徒は借家での授業を余儀なくされていた。

本件は、同2校を合併し、高台に新校舎2棟を提供し、電光が暗い借家で授業を受けている中学生の教育条件を改善するというものである。

【江西省ガン州龍南緑化計画】

被供与団体: 香港緑化中国基金

供与額: 82,131 米ドル

契約署名日: 平成 12(2000)年 11 月 8 日

案件概要:

江西省ガン州龍南県武当鎮石下村の年間所得は1人あたり980円で極めて貧しく、高温多雨気候の長年の影響で、土壌が酸化し、土質低下が著しく、付近五村の水電の灌漑用水となる農業用ため池の保水力も弱く、生態環境破壊に更に拍車をかけていた。

本件は、混合的植樹(ハスの木、楠、ポプラ、楓、アカユーカリなど)を行うことにより保水効果を高め、暴雨の際の洪水被害、土砂流失の被害を軽減し、当該地区で生活する1万3千人あまりの人々の生態環境を改善した。また、植林全体の10%にあたる13,600株を経済林種(栗)とし、現地住民の収入向上に寄与し、地域発展の基礎となっている。

【江西省九江県第四中学校総合教学楼移転再建計画】

被供与団体: 江西省九江県第四中学校

供与額: 93,172 米ドル

契約署名日: 平成 14(2002)年 3 月 7 日

案件概要:

九江県は貧困県に指定されており、また、プロジェクトサイト付近の4つの郷、54の村は特別貧困県に指定されている。工業はなく、現地住民は、綿花栽培に依存した生活をしており、1人あたりの平均年収は1,100元、最も貧しい農民は700元にも満たない生活水準である。

同地には、1998年以前4つの不完全な形の中学校があったが、1998年、1999年の大洪水によりいずれも修繕不可能な深刻な被害を受けた。教育の効率化を目指す教育改革の流れを受け、4校が統合されて九江県

第 4 中学が設立されたが、新校舎を建設する財政的余力はなく、鉄道部門から借りた空き地、簡易民家、老朽化の激しく窮屈な教室で授業を行っており、絶対的教室数も不足し交代で授業を行わざるを得ないクラスもあり、カリキュラムにも大きな影響を与えていた。

本件は、上記のような状況に鑑み、本校で学ぶ学生たちに良好な教学条件を提供するための新校舎建設資金を供与したものの。

【江西省寧岡県教育条件改善計画】

被供与団体: 江西省井冈山市人民政府

供与額: 78,654 米ドル

契約署名日: 平成 13(2001)年 12 月 5 日

案件概要:

古城中学校が所在する古城鎮は寧岡県の 12 の郷鎮の中で最大の鎮で、人口は 1.4 万人、耕地面積が少なく、住民の年間収入は 700 元(2000 年)、鎮の財政収入が不足していた。同校は古城鎮の唯一の中学校で、生徒は 650 名、教職員は 45 名、建築面積は 2,300 平米うち、120 平米は崩壊の危険があり、1,000 平米が老朽化していたため、1,120 平米(二棟)の校舎は封鎖され、使用不可能の状態であったため、小学六年生の生徒は 2 年間中学校に進学できずにいた。

本件では、新校舎の再建により、教室増設のための資金を供与したものの。本件実施により、小学校を卒業しても中学校に入学できない 100 名以上の生徒を追加で受け入れることが可能となり、学区内の学齢児童、生徒すべてが 9 年間義務教育を受けることが可能となり、650 名の生徒及び 45 名の教職員が倒壊の危険のある校舎で授業を受ける必要がなくなり、快適な環境の中で授業を行うことができるようになった。

【江西省吉安県永和鎮錦源村灌溉水路建設計画】

被供与団体: 江西省對外貿易經濟合作庁

供与額: 84,220 米ドル

契約署名日: 平成 13(2001)年 12 月 5 日

案件概要:

吉安県永和鎮錦源村は、人口 2,045 人、農業以外の産業はなく、1 人あたりの平均収入は 800 元にも満たず、国家級貧困県である同県の中でも特に貧しい地域である。同村西 2.5 キロ離れた場所には 40 年前に建

設されたダムと、そこから南北に延びた 8 キロの灌漑水路があり、同村周辺農地 2,064 ムーに灌漑しているが、老朽化が進み、長年貧困から脱却できない主な原因となっていた。

本件は、以上のような状況に鑑み、既存の灌漑主水路合計 8 キロをより強固な設備なものに全面改修するための資金を供与したもの。農地 2,064 ムーの灌漑設備を改善し、収穫量増産、品質向上、ひいては地経済発展が期待できる。

【江西省万安県宝山郷宝山小学校校舎建設計画】

被供与団体：江西山江湖持続可能発展促進会

供与額：36,302 米ドル

契約署名日：平成 13(2001)年 8 月 28 日

案件概要：

万安県は、交通が不便であること、江西省最大の水庫を有するものの返って耕作地が欠乏していること等から、全県人口(30 万人)の 40%が貧困状態であると認められ、国家級貧困県に指定されている。プロジェクトサイトである宝山郷は、その中でも山間部の最も辺境地区に位置し、農民の一人当たりの年収は 690 元であり、財政逼迫状態に陥っている。このような中、1997 年以来、同郷政府は科学教育振興、教育の均一化・質の向上及び教師給料節約等の観点から、小学校 17 校を 12 校に、教師等の教育従事職員を 74 人から 58 人に減少調整した。4 年の自助努力を経て 11 校の小学校建設(210 万元、合計校舎面積 5,200 平米)を達成したが、財政逼迫により、最後の 1 校(宝山庄学校)を建設する事ができずにいた。

本件は、以上のような状況に鑑みて、宝山庄学校校舎 1 棟を供与したもの。本件実施により、同校に通うべき 7 つの行政村の生徒(420 名)の教育条件改善が期待される。

【江西省都昌県母子保健院再建計画】

被供与団体：江西省都昌県人民政府

供与額：81,551 米ドル

契約署名日：平成 14(2002)年 11 月 25 日

案件概要：

都昌県は、江西省北部、南昌市より 240 キロ離れた波陽湖北岸に位置し、総面積 180 平方キロ、総人口 73 万人、住民一人当たりの年間所得は 1,272 元で、財政状況は例年大幅な赤字が続いていて、医療分野への財政支出も限られている。

プロジェクトサイトである同県母子保健院は、婦人科、産婦人科及び小児科の専門施設で、同県の多数の女性・子供が利用しているが、度重なる洪水の被害と老朽化により建物自体が危険建築物となっていて、危険な状態が続いていた。衛生状態も極めて劣悪で、分娩室・手術室・診察室の全てが省の定めた衛生基準に達しておらず、許容数を遥かに超える年間 5 万人の患者を抱えていて、適切な対応ができず、廊下で輸血を行わざるを得ない等劣悪な状況が続いていた。

本件は、以上のような状況に鑑みて、同県母子保健院に対して別の場所に新しい保健院を供与する(建替え)ことにより、同保健院の許容患者数を適正規模に増加させるとともに、劣悪な医療環境を改善して、同県の女性・子供の健康状態の改善を図るというもの。なお、同県人民政府も現状を重く受け止めていて、プロジェクトが実行に伴い、新しいX線装置など導入の必要がある医療機材を手当した。

【江西省玉山県永溪鎮中心小学建設計画】

被供与団体: 江西省玉山県永溪鎮政府

供与額: 81,524 米ドル

契約署名日: 平成 15(2003)年 3 月 4 日

案件概要:

江西省玉山県は、浙江省、安徽省との省境に位置し、赤土地帯で土地が痩せており、省級の貧困県に指定されている。2001 年の同県財政収入は 9,552 万元、財政支出 1 億 5,000 万元で大幅な財政赤字となっている。

以前の 8 小学校は、玉山県に点在しており、多くの学校が低地に位置していたためにたびたび浸水に見舞われ、授業を中断せざるを得ないのみならず、校舎の傷みも非常に激しかった。

本プロジェクトは上記 8 つの小学校を統合して 1 つの中心小学を建設したもの。本件実施により、1,200 名の学生が安全な環境での学習を保証され、従来一学校 100 名程度の生徒しかいなかったために、十分な内容の教育を行えなかったが、学校の整理・統合により、より高度な内容の授業を生徒に対して行うことが可能となる。

【江西省吉安市、撫州市水害緊急援助計画】

被供与団体: 中国赤十字会總會

供与額: 81,021 米ドル

契約署名日: 平成 14(2002)年 12 月 10 日

案件概要:

江西省吉安市は、2002年6月以来、当市は既に4度大洪水の被害を受けており、特に10月下旬に発生した10年に1度の大洪水は暴雨による河川増水のため、吉安市他3市23県に影響を及ぼし、302郷2,917村が被害を受け、被災者251.87万人、死亡者13人、負傷者3,759人を記録し、2.9万人余りが家屋を失い、直接経済損失は17.68億元に上った。4度の災害で被った損失は膨大である上、財政状況が逼迫しているところ、被災地の復興のために食糧、医薬品、毛布他物資の配給が必要であり、省赤十字は70万元以上に相当する救済物資を供給したが、底をつき、吉安市をはじめとする被災民の需要を満たすことが出来ていない状況であった。

江西省撫州市は、2002年に2度にわたり降り続いた豪雨の影響で管轄下の広昌、南豊、南城県域内に通っている河川流域に史上最大の洪水が発生し、8県、78郷、1,149村が被災し、計178.33万人が被害を受けた。うち、死亡者14人、負傷者4,307人、家屋を失ったもの6.8万人、被害を受けた農地面積44,632ヘクタールに及び、直接経済損失は39.69億元に上る。これらの2度の洪水災害に対し、市赤十字会、幹部は組織を形成し救済活動により既に86万元余りの米、毛布、衣服、食品、テント他救済物資を送ったが、本格的な冬を迎える中、被害規模が大きく、現地の需要を満たしておらず、米、毛布他の物資は大幅に不足していた。

本件は洪水災害で被害の最も深刻な江西省の2地域(吉安市・撫州市)に緊急的に必要である食糧(お米132トン、100トン:両市被災者の三か月分の食糧)並びに物資配給、地域間のコーディネート、物資配給の登録業務、事後評価を実施する際の手段として必要である車輛を援助したものの。

(裨益効果)

本プロジェクトにより、当時としては江西省においても一流のオーディオ教室が設備され、学校の日本教育環境が格段に改善された。また、音声機械を利用したヒアリングの練習や声を出しての日本語の練習の機会が増え、学生の学習意欲が向上した。なお、このオーディオ教室は日本語試験のJLPT、Jtest等の試験場としても活用されている。

【江西省南昌大学日本語教育環境整備計画】

被供与団体: 南昌大学

供与額: 74,116米ドル

契約署名日: 平成15(2003)年10月18日

案件概要:

南昌大学は、その出身者が江西省各政府部門における日本語人材の約95%を占める等、江西省の日本語教育において極めて重要な役割を果たしており、また、同大学においては、より良い職を求めて日本語を学習する学生が年々増加している。他方、同大学は資金不足のため日本語学習機材が不足(日本語録音や入力、検索に必要なコンピューターや語学設備は皆無)しており、労働市場のニーズに見合う人材を育成し得

る日本語教育を行うには至っておらず、また、他省の同規模大学と比較しても、日本語学習の設備が不十分であった。

本件は、厳しい労働市場のニーズに見合うレベルの日本語人材の育成を図るために、南昌大学日本語学科のLL教室の設置に関わる資金を供与したものである。

本プロジェクトの実施により、日本語を学習する学生 1,290 人、教師 20 人の教育環境が改善され、江西省における日本語教育のレベルが向上すると共に、優秀な日本語人材が市場に供給され、我が国と江西省ひいては中国との友好交流が更に発展することが期待される。

(裨益効果)

本プロジェクトにより、当時としては江西省においても一流のオーディオ教室が設備され、学校の日本教育環境が格段に改善された。また、音声機械を利用したヒアリングの練習や声を出しての日本語の練習の機会が増え、学生の学習意欲が向上した。なお、このオーディオ教室は日本語試験の JLPT、Jtest 等の試験場としても活用されている。

<関連写真>



支援したオーディオ教室
(2018年10月30日撮影)



ODA プレート
(2018年10月30日撮影)



草の根の支援をきっかけとして当館が同大学で実施した日本文化紹介講座
(2018年10月30日撮影)



【江西省瑞昌市南陽河流域住血吸虫病予防治水計画】

被供与団体: 江西省瑞昌市人民政府

供与額: 79,384 米ドル

契約署名日: 平成 15(2003)年 9 月 11 日

案件概要:

瑞昌市は、長江流域に位置することから古来より住血吸虫病の被害に悩まされており、これまで薬剤の定期的散布などによって感染媒体のカタヤマガイ、ひいては住血吸虫病をほぼ基本的に根絶するに至った。しかし 1998 年、1999 年の洪水によって長江から再び住血吸虫が流入してきた。同病の初期症状はめまい・頭痛等といったものだが、症状が進行すると肝脾臓の機能障害・腹部膨張・脳溢血を引き起こす。特に農作業で水田に立ち入る農民が同病に罹患する確率が高く、瑞昌市では感染地域の住民に対して毎年最低一度の身体検査を行い、同病が手遅れになる危険性を未然に防いでいる。

本件は総額 250 万元を投入する瑞昌市の総合住血吸虫病根絶計画の一部であり、公衆衛生改善という注目度の高い案件でもある。プロジェクト実施地周辺住民約 2.4 万人が裨益する(マッチングファンドによる案件実施地住民を合わせて計約 7.5 万人)。同病の感染の危険がなくなり、毎年カタヤマガイ撲滅に投入していた資金が節約できる。また水路の建設によって耕作条件も改善され、農民の収入増につながる。

(裨益効果)

水路をコンクリートで舗装することにより、住血吸虫の中間宿主である巻貝が大幅に減少した結果。人間と耕作用牛の感染率が 2004 年の 9.5%と 1.89%からそれぞれ 2005 年の 4.7%と 1.15%で、2006 年の 0.5%と 0.62%まで減少し、2020 年までに住血吸虫病を撲滅できる見込みである。

<関連写真>

(支援後)



コンクリートで舗装された水路
(2019 年 9 月 25 日撮影)



ODA プレート
(2019 年 9 月 25 日撮影)

【江西省弋陽縣朱坑鎮蔡家小學校建設計画】

被供与団体: 江西省弋陽縣人民政府

供与額: 74,541 米ドル

契約署名日: 平成 15(2003)年 12 月 22 日

案件概要:

本件は、1998 年に中国を襲った記録的な大洪水により校舎を失った朱坑鎮蔡家小學校の校舎を再建し、良好かつ安全な学習環境を提供した。洪水の際、周辺の建物とともに押し流された小學校校舎は、資金不足のため再建できておらず、他の建物を転用して小學校として使用していたが、右建物も老朽化が激しく、教室も不足しているという状況にあった。

同校校舎の建設により、16 の村に住む児童 524 名が 9 年間の義務教育を受けることが可能となり、同地域児童の就学問題が解決されるとともに、県の教育レベルを向上させることができる。

【江西省吉安縣上水道整備計画】

被供与団体: 江西省吉安縣人民政府

供与額: 169,491 米ドル

契約署名日: 平成 17(2005)年 3 月 21 日

案件概要:

吉安縣は江西省中部に位置し、人口約 43 万人、面積 2,117km²、新中国誕生に貢献した革命烈士を多く輩出した土地であるが、現在は特に発達した産業はなく、県民一人あたりの平均年間現金収入は 1,235 元(約 2 万円)の貧しい農村地域である。

本件は、被供与団体が試験的に押し進めてきたプロジェクトであり、かつては各戸が数メートルの旧式井戸を掘って人力でくみ上げていたが、共同の井戸を掘って機械でくみ上げ、各戸に給水するというものである。吉安縣は洪水や干害が多い地域で、水不足がひどい地域は 200 村(約 10 万人)におよび、日常生活や家畜養殖に支障が生じていた。2003 年には、大きな干害にみまわれ、5 万人が被害を受け、1,500 頭の家畜が汚水飲用によって死亡した。しかし、永和鎮、敦厚鎮、万福鎮、桐坪鎮内の 28 村については中国側で早急な予算措置が取れず、上水道整備が急務となっていた。

本件の実施により、4 鎮内 28 村(5,000 戸、2 万人)に安全な水が供給され、生活に必要な水が確保される

ことから、BHN(ベーシック・ヒューマン・ニーズ)の保障が可能となる。なお、年間水道料金は一戸あたり約30元となる見込みで、経済的に支払いが困難な家庭に対しては、地元政府等から補助金が支給される。

【江西省樂安縣流坑病院建設計画】

被供与団体: 江西省樂安縣人民政府

供与額: 88,305 米ドル

契約署名日: 平成 17(2005)年 8 月 17 日

案件概要:

樂安縣は、江西省南部に位置し、人口約 36 万人、面積 2,413km²、近年観光収入が増加したものの、県民一人あたりの平均年収は 1,203 元の国家級貧困県である。流坑病院は、流坑村唯一の病院で周辺 3 村の医療を担っているが、従来の病院は 1970 年代に建てられ、老朽化が進み、危険家屋に指定されていた。また、医療機材はほとんど整備されておらず、旧式であったため、正確かつ十分な診療は困難であった。本件は新たに 2 階建て総合病院(1,022m²) 1 棟を建設するための資金及び医療機材(200mAX線診断装置、超音波診断装置、心電図、検査機器一式、血液検査装置、尿検査装置)を整備するための資金を供与し、医療環境の改善を図るもの。

(裨益効果)

本件の実施により、周辺村を含む 2 万人のプライマリヘルスケアを保証し、より良質な医療サービスを提供できるようになった。同院は支援から 10 年以上が経過し、地域が観光業等によって発展して以降も、地域の医療拠点としての役割を引き続き果たしている。

<関連写真>



竣工式



竣工式



X線診断装置



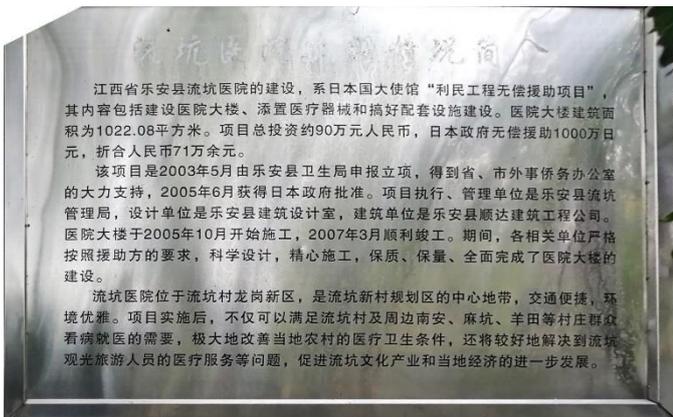
超音波診断装置



生物化学検査機器



血液検査装置



ODAプレート

(2019年9月26日撮影)

【江西省鄱陽県蒗山初級中学校校舎建設計画】

被供与団体: 江西省鄱陽県人民政府

供与額: 89,063 米ドル

契約署名日: 平成 19(2007)年 1 月 30 日

案件概要:

江西省鄱陽県は、省都・南昌市の北東約 230kmに位置し、人口約 150 万人を擁する県で、特筆すべき産業を持たない国家級貧困県である。同県は、省内 99 県の中で最も義務教育水準の遅れた県とされており、近年県政府は各方面の予算補助を受けながら、県内の小中学校の学習環境整備に注力している。蒗山初級中学校においても、実験室、PC教室、LL教室、クラブ活動室といった施設を持たず現代の義務教育水準に達していなかったため、同校敷地内に新たに 4 階建て校舎 1 棟を建設するとともに、自転車小屋 1 箇所を設置するための資金を供与したものの。

蒗山初級中学校の児童 805 名が現代教育のニーズに沿った校舎で学習することが可能になり、県内における教育水準の向上に貢献している(当校児童数は、2007 年 9 月には 900 名近くまで増加する見込みである)。

【江西省于都県銀坑鎮上水道整備計画】

被供与団体: 江西省青年連合会

供与額: 88,601 米ドル

契約署名日: 平成 19(2007)年 1 月 30 日

案件概要:

江西省于都県は省都・南昌市の南へ約 350kmの距離に位置し、9 鎮 14 郷を管轄する人口約 94 万の県である。于都県は 1934 年の労農紅軍長征の出発地として名が知られているが、特筆すべき産業を持たず、県民平均年収は 1,425 元(約 2 万円)と貧しいため、国家級貧困県に指定されている。

于都県は治山治水が行き渡っておらず、干ばつや冠水の被害が頻発している。2003 年には稀に見る規模の干ばつが発生し、当時、県民 25 万人、家畜 18 万頭が正常に飲用水を摂取することができず、うち家畜 1 万頭が汚水を飲んだことが原因で病死した。統計によると、現在も県内の 300 近い村落が飲用水問題に苦しんでいるとされる。鎮政府は、大干ばつの被害を契機に上水道整備計画を実施してきたが、県、鎮ともに貧窮した財政状況のため抜本的な解決策を実行するには至らず、依然として 2 万人近くの鎮民が安全な飲用水が確保できずにいた。

江西省南部に位置する于都県銀坑鎮において、現地の飲用水問題を解決すべく、井戸掘削および上水道設備の設置を行うための資金を供与したものの。

【江西省金溪县琅琊鎮陳源小学校校舎建設計画】

被供与団体: 江西省金溪县人民政府

供与額: 74,638 米ドル

契約署名日: 平成 19(2007)年 12 月 22 日

案件概要:

撫州市金溪县は、江西省の省都・南昌市から南東へ約 150kmの距離に位置し、人口 27.8 万人を有する。内約 8 割が農業に従事する農業県であるが、県の土壌は主に農業に適さない黄土質であるため栽培量は限られ、確固たる経済基盤となるには至っていない。そのため県の財政は苦しく、2006 年においては約 4,100 万元(約 6 億 3,500 万円)も支出超過しており(収入: 2 億 4,750 万元、支出: 2 億 8,856 万元)、慢性的な財政赤字に陥っている。

本件プロジェクト・サイトである陳源小学校は、金溪县西部、琅琊鎮の農村地帯に位置する。同校は児童 352 名、教員 14 名から成り、平屋建て教室棟 2 棟(各棟 3 教室)、教員宿舎、トイレ及び食堂を有した。校舎は 1980 年代半ばに建設されたレンガ造りの簡易なものであり、天井の一部に穴が空き、窓枠にガラスがはめられていないなど老朽化が深刻で、C級危険建築物に指定されている。また、教室は 6 室のみで、60 名近くが 1 教室で授業を受けており、児童 1 人あたり教室面積は 1.36 m²と非常に狭隘である。県政府によると当校の児童数は増加傾向にあり、07 年 9 月には 363 名、08 年 9 月には 383 名に増加する予定とされ、現状のままでは教室不足がより切迫した問題となる。

(裨益効果)

本件の実施により、児童の受け入れに十分な教室数を確保できたほか、快適な環境で授業を行うことが可能になった。

<関連写真>



校舎外観
(2019 年 9 月 26 日撮影)



中日友好と校名に表示
(2019 年 9 月 26 日撮影)



教室の様子
(2019年9月26日撮影)



ODAプレート
(2019年9月26日撮影)

【江西省上饒県董団中学校校舎建設計画】

被供与団体: 江西省上饒県人民政府

供与額: 85,982 米ドル

契約署名日: 平成 19(2007)年 12 月 22 日

案件概要:

上饒市上饒県は、江西省の省都・南昌市から東へ約 260kmの距離に位置し、人口約 72 万を有する。当県は、上饒市中心部から西へ約 30kmの距離にあり、アクセスは比較的容易であるが、市の経済圏内にはなく、貧しい農村地帯となっている。農業は、茶葉を始め水稲、穀物類の栽培が盛んであるが、他産業の発展が遅れており、経済成長の速度は緩慢である。県民の平均年収は 1,300 元(約 2 万円)に満たず、同県は国家級貧困県に指定されている。

本件プロジェクト・サイトである董団中学校は、上饒県西部にある董団郷内に位置する。同校は 1980 年に創立され、2007 年現在生徒 1,468 名が在籍し、教員 86 名が教鞭を執っており、校舎が 3 棟あるほか、宿舎棟、食堂棟、トイレ棟などを使用している。同校生徒 1,468 名は 22 組に分けられ、全ての普通教室を活用しているが、1 教室あたりの生徒数は平均 67 名にも上る。教室は 1 室約 56 m²の広さしかないため、1 人あたり教室面積は約 0.8 m²と非常に狭隘であり、生徒たちは劣悪な環境下で学習している。

かかる事情に鑑み、県政府は同校において普通教室 9 室を有する新校舎の建設を決定したが、県政府の財政は苦しく、2006 年には 2 億 2,940 万元(約 35 億 5 千万円)も支出超過するなど慢性的な財政赤字に陥っており、十分な予算措置をとることは困難であるため、日本政府に援助を要請越したものである。本件の実施により、董団中学校が近隣小学校の 6 年生児童約 630 名を受け入れつつ、正常な学校運営を確保することが可能になる。

【江西省崇仁県河上鎮陳村小学校建設計画】

被供与団体: 江西省崇仁県人民政府

供与額: 87,716 米ドル

契約署名日: 平成 21(2009)年 3 月 20 日

案件概要:

崇仁県は、江西省の中部に位置し、農業を主産業としており、経済基盤が脆弱で、その中でも河上鎮の平均年収県平均より低いため出稼ぎ労働者も多く、教育環境の整備が必要されている地域が多い。

陳村小学校は、生徒数 233 名、1972 年に設立された学校であり、現有の 70 年代に建設されたレンガ造りの校舎は、狭隘で C 級危険家屋に指定されている。校舎の老朽化により一部の部屋は倒壊し、使用不可能となっているため、学校の中には使用できる教室が 2 つしかないため、一つの教室を仕切って 3 つの教室として使用するほか、周辺民家から借りた部屋を臨時的教室として使用している。また、教師宿舎、事務室及び食堂も老朽化が著しく、関係者の生命・財産の安全が脅かされている。しかしながら、同陳は、旱魃や洪水等の自然災害が多く、経済は脆弱で住民の収入増加も緩慢なため、学校を建設するための資金がない。

そのため、草の根無償資金協力で、村の中心に新たに鉄筋コンクリート造りの教学棟、総合棟及び食堂を建設することにより、生徒、教師及び関係者の生命・財産の安全を確保し、定員制限等により学習機会を得られなかった子供たちが入学できるようになり、崇仁県の教育環境の改善が図られる。

<関連写真>

(支援前)



教学棟(平屋、176 m²)



教室(民家)の内部



生徒達 1

(支援後)



生徒達 2



教学棟



総合棟

【江西省瑞金市黄柏郷直坑小学校総合棟建設計画】

被供与団体: 江西省瑞金市人民政府

供与額: 87,388 米ドル

契約署名日: 平成 21(2009)年 3 月 20 日

案件概要:

瑞金市は、江西省の東南部に位置し、東は福建省に隣接している。瑞金市は、1931 年当時、中華ソビエト共和国臨時政府の根拠地であり、山地で辺鄙な場所に位置する革命老区であるため、経済基盤が脆弱で、省級の貧困市に指定されている。

黄柏郷直坑小学校は、生徒 376 人、1965 年に設立された学校で、生徒数が年々増加しており、数年後には

約 460～580 人に達すると見込まれている。同校には 3 棟校舎があるが、1 棟を除き、60～70 年代に建てられて、老朽化が著しい危険家屋に指定されており、生徒、教師及び関係者の生命・財産の安全を脅かしている。

しかしながら、現在、市の財政収入の 65%以上が教育対策に投入されているにもかかわらず、市内の小・中・高等学校のうち半数が危険家屋に指定され、今後予想される生徒数の増加に応えられないおそれがあるなど、現状の教育問題の根本的解決には至っていない。

そのため、草の根無償資金協力で、新たに鉄筋コンクリート造りの総合棟や外壁・校門・校庭を整備することにより、より多くの生徒が同校で学べるようになり、瑞金市の教育環境の改善が図られる。

<関連写真>



支援前の教学棟(総合棟予定地)



教室内部の様子



支援後の総合棟

【江西省興国県梅窖衛生院総合棟建設計画】

被供与団体: 江西省興国県人民政府

供与額: 87,958 米ドル

契約署名日: 平成 22(2010)年 3 月 30 日

案件概要:

興国県梅窖衛生院は、梅窖鎮唯一の衛生院(750㎡)として、近隣住民 2.5 万人の医療サービスを提供しており、1 日の平均診察数は入院患者も含め 100 名である。同院は、2006 年以前は私立衛生院で、同年 1 月に県政府の要請により公立衛生院に指定されたものの、建物は 80 年代に建設されたもので老朽化が進んでいるほか、診察室や病室が共に狭隘で、国が定める衛生院の建設基準を満たしておらず、増加する医療ニーズに追いついていない。

本計画は、新たに同院の総合棟 1 棟(3 階建て、鉄筋コンクリート造り、1,627 ㎡)を建設するものである。本件の実施により、近隣住民 2.5 万人の医療環境を直接向上させるだけでなく、周辺地域の住民 20 万人の受診機会の増加が期待される。

<関連写真>



現在の衛生院、病室



総合棟建設予定地



支援後の衛生院

【江西省万年県特殊教育学校教学棟建設計画】

被供与団体: 江西省万年県教育局

供与額: 88,140 米ドル

契約署名日: 平成 22(2010)年 3 月 30 日

案件概要:

現在、万年県には身体障害及び軽度の知的障害児童向けの特殊教育学校がなく、県内の 287 人の障害児の多くは一般の小中学校に通学しているものの、外地で就学する児童や就学することができない児童もあり、義務教育の死角となっている。

本計画は、県内の障害児のうち聾啞児童を受け入れるため、県内初の特殊教育学校の教学棟 1 棟(4 階建て、鉄筋コンクリート造り、延床面積 1,600 m²)を建設するものである。本件の実施により、聾啞児童 126 人の教育環境が整備され、県内の障害児向け義務教育の定着促進が期待される。

<関連写真>



教学棟建設予定地



周辺地域の普通小学校



竣工した校舎
(平成 28 年 4 月撮影)



校舎は「中日友好特教楼」と名付けられている
(平成 28 年 4 月撮影)

【江西省新余市分宜県鳳陽郷礼堂村上水道整備計画】

被供与団体: 江西省分宜県人民政府

供与額: 97,348 米ドル

契約署名日: 平成 23(2011)年 3 月 29 日

案件概要:

江西省新余市分宜県礼堂村の一部地域には、現在、上水道が整備されていないため、住民は井戸水を飲料水としているが、同村の近隣では長期的に炭鉱が採掘され、様々な有害物質により地下水や地表水が汚染されている。さらに、当該井戸水には、大腸菌をはじめとする細菌が国の定める飲料水基準の 10 倍以上含まれており、胃腸疾患にかかる住民も少なくなく、安全な飲用水の確保は喫緊の問題になっている。

分宜県は降水量が豊富で、年平均降水量は 1,580ml、降水量が少ない時期でも 1,400ml あり、県水利局が調査したところでは、礼堂村から 3km 離れた山から、出水量・水質共に飲料水に適した湧き水が流れている。しかしながら、分宜県は、財政収入が限られているため、上水道整備に係る費用を拠出することは困難な状況にある。

そこで、分宜県政府では、礼堂村のうち上水道が整備されていない上記地域に暮らす 1,205 人の住民に安全な飲料水を安定的に供給するため、貯水池 1 基、給水塔 2 基、配水管を整備することとして、草の根無償資金協力を申請越したものである。

<関連写真>

(支援前)



現在使用中の井戸水



飲料水に適した湧き水(貯水池建設予定地)

(支援後)



貯水池



ODAプレート



給水塔



民家の配水管

【江西省萍鄉市大安衛生院麻田分院総合棟建設計画】

被供与団体: 江西省萍鄉市芦溪县人民政府

供与額: 105,583 米ドル

契約署名日: 平成 23(2011)年 3 月 29 日

案件概要:

大安衛生院麻田分院は、現在、医者3名、看護師3名、その他の職員3名、病床6床で、年間問診患者数、急診数はそれぞれ、2,136人、20人である。医療業務棟及び附属棟は1970年代に建設されたもので、建築面積は合計 1,061 m²(医療業務棟は2階建て、附属棟は1階建て、木造モルタル造り。ただし、老朽化により、一部病室は現在使用不能。)、病室4室、診察室4室、医療補助室 14 室を有し、危険家屋B級に指定されている。また、2008年の凍結災害を受け、更に建物の危険度が増し、住民の医療ニーズに対応できていない。

そのため、芦溪县政府では、麻田地域の住民1万人に対して良好な医療環境を提供するため、麻田分院の現有の附属棟2棟を取り壊した跡地に総合棟1棟(3階建て、鉄筋コンクリート造り、延床面積 939.04 m²)を整備することとして、草の根無償資金協力を申請越したものである。

<関連写真>

(支援前)



付属棟 2 棟(総合棟予定地)



病室内の様子

(支援後)



総合楼入り口(支援後)



完成した総合楼



病室の様子



ODAプレート

【江西省吉安市万安县潞田鎮小学校建設計画】

被供与団体: 江西省万安县人民政府

供与額: 109,552 米ドル

契約署名日: 平成 25(2013)年 3 月 25 日

案件概要:

下石小学校はかつて築 40 年を超えるレンガと木製造りの校舎を使用していたが、2 棟共に老朽化が激しく、建物全体が危険家屋になっていた。そのため、より良い条件の学校で就学をさせようと、子供達を遠くまで連れて行き、他村で就学させる保護者もいた。

このような就学環境を改善するため、危険家屋に指定された老朽化した校舎の取り壊し、1棟2階建て(610㎡)の校舎1棟の建設及び既存校舎の補修、校庭の整備を行ったもの。

<関連写真>



旧校舎



旧校舎の教室内



新校舎



新校舎の教室内

【江西省九江市彭澤県天紅中心完小学校中日友好総合棟建設計画】

被供与団体: 江西省九江市彭澤県人民政府

供与額: 107,392 米ドル

契約署名日: 平成 26(2014)年 3 月 17 日

案件概要:

彭澤県天紅中心完小学校には、教学棟、事務棟、食堂、運動場などの施設はあるが、老朽化が進んでいたり、児童数に対して十分な広さを確保できていない施設が多い。また、パソコン室や保健室など各機能を備えた教

室がなく、現代化教学施設の不足が深刻である。このため多種機能を備えた総合棟の建設を全校生徒職員一同切望している。

本件は、同校の教育施設不足を解消し、児童の就学環境を改善するため、多種機能を備えた“中日友好総合棟”（3階建て 595.2 m²）を建設するものである。総合棟には、省の基準に準じて保健室、心理カウンセリング室、美術教室、マルチメディア教室、音楽教室、パソコンルーム、語学演習室、実験室、閲覧室、図書室の機能教室が設置される計画である。

<関連写真>



旧校舎



旧校舎の教室内



完成した総合棟の全景



「中日友好综合楼」と書かれている



マルチメディア室



実験室